

# 東邦大学学術リポジトリ



## OPAC

東邦大学メディアセンター

タイトル	第152回東邦医学会例会：当番教室企画：東邦大学三病院における呼吸器外科の現状と新人教育を含めた今後の展望：座長のことば
別タイトル	152st Regular Meeting of the Medical Society of Toho University Symposium Division of Chest Surgery: Present and future perspective including training for residents in Chest Surgery of Toho University Hospitals
作成者（著者）	秦,美暢
公開者	東邦大学医学会
発行日	2019.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 66(1). p.46 47.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	総説
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2018 055
メタデータのURL	<a href="https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD39322980">https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD39322980</a>

## 当番教室企画 (第 152 回東邦医学会例会)

### 座長のことば

秦 美暢

東邦大学医学部外科学講座呼吸器外科学分野准教授

今年、平成 30 年は日本専門医機構による新外科専門医制度が開始された元年である。外科領域における平成 30 年 4 月研修開始の専攻医登録数は 805 名と発表され、これまで 5 年間減少傾向であった外科研修開始医師数が回復傾向を示した。平成 26 年に発足した日本専門医機構は、第三者機関として専門医制度の標準化を図り、質の高い研修制度を確立し、質の高い専門医を育成することで、質の高い医療を国民に提供することを目的としており、平成 29 年に研修プログラムの審査を行い、専攻医の募集を開始して、平成 30 年 4 月に基本領域の専門医制度開始を迎えたわけである。

基本領域の専門医制度が開始された現在、次はサブスペシャリティ領域、さらに今後は 3 階部分の高次専門医制度との連動が検討を進められている。外科専門医直結のサブスペシャリティ領域は、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺、内分泌外科、の 6 領域である。より高度な技能と知識を体得するための研修カリキュラムが整備されており、平成 31 年 4 月から新専門医制度での基本領域との連動研修が開始され、9 月にはサブスペシャリティ領域の専攻医研修について公表が予定されている。

このような背景の中、第 152 回東邦医学会例会のシンポジウムとして「東邦大学三病院における呼吸器外科の現状と新人教育を含めた今後の展望」をテーマとし、東邦大学三病院の中核を担う 3 演者に講演を依頼し、相互に討議して頂いた。

第 1 席は、大橋病院の桐林孝治先生にご報告頂いた。はじめに大橋病院のトピックとして、5 日後である 6 月 20 日に開院を控えた大橋病院新病院完成のご報告と、翌日に予定されている病院引越しという一大事業の準備状況など大変興味深い話題をご提供頂いた。続いて、外科学第三講座の沿革と呼吸器班のスタッフ構成ならびに手術数と肺癌手術成績についてご報告頂いた。初期・後期研修医に対する教育として、ローテーション研修を通じた外科専門医ならびにサブスペシャリティ専門医の取得の状況をご報告頂き、最後に開胸手技における研修医教育について具体的にご呈示頂いた。今後の展望としては、呼吸器外科志望の先

生方が増えてきたというご報告と、多施設共同研究として実施した術後補助化学療法の研究<sup>1,2)</sup>を例にあげて、三病院で連携した学術活動を活性化させたいというご提案を頂いた。

第 2 席は、佐倉病院の長島誠先生にご報告頂いた。佐倉病院の手術件数と肺癌手術件数をご報告頂き、続いて高齢者の難治性気胸の手術成績についてご報告頂いた。肺気腫や間質性肺炎を伴う難治性気胸は日本呼吸器外科学会や日本気胸・嚢胞性肺疾患学会でも繰り返し取り上げられている重要なテーマであり、佐倉病院での積極的な取り組みについてご紹介頂いた。また複数の他施設と実施されている共同研究や、教育活動についてご紹介頂き、今後の展望については東邦大学三病院が中心の臨床研究や各種臨床試験への参加などについてご提案頂いた。

第 3 席は、大森病院の大塚創先生にご報告頂いた。手術症例数のご報告のあと、特発性間質性肺炎や慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患を併存した肺癌症例に対する術式と周術期管理についてご報告頂いた。続いて、週間スケジュール、各種研究費取得状況、学会賞などの受賞状況、動物臓器を用いた手術手技研究会 (Hands-On Training for Thoracic Surgery: HOTS)、専門医などの資格取得状況についてご報告頂き、今後の展望として手術症例増加、海外との共同研究、より多くの呼吸器外科医育成、などをご報告頂いた。

それぞれの講演毎に各演者間での質疑応答や同席した若い先生方からの質問を受けての活発な議論がなされた。基本領域ならびにサブスペシャリティ専門医の育成を進めるうえで、カリキュラムの検討や研修施設群の形成など相互に協力し合うことがますます重要となりつつあり、今後の親密な連携を高めてくれる有意義な講演会となった。

### 文 献

- 1) Kiribayashi T, Hata Y, Kishi K, et al. Adherence and Feasibility of 2 Treatment Schedules of S-1 as Adjuvant Chemotherapy in Completely Resected Lung Cancer. IASLC 18th World Confer-

- ence on Lung Cancer, Yokohama, Japan, 2017. 10.
- 2) Hata Y, Kiribayashi T, Kishi K, et al. Adherence and feasibility of 2 treatment schedules of S-1 as adjuvant chemotherapy for patients with completely resected advanced lung cancer: a mul-

ticenter randomized controlled trial. BMC Cancer. 2017; 17: 581.

DOI: 10.14994/tohoigaku.2018-055